

令和5年度 第3回全国健康保険協会和歌山支部評議会議事録

開催日時：令和6年1月16日（火）14：00～16：00

開催場所：和歌山城ホール（4 階） 会議室 1

出席者：金川評議長、岡田評議員、貴冬評議員、小牧評議員、嶋本評議員、中村評議員、
畠山評議員（評議員五十音順）

令和6年1月16日に令和5年度第3回全国健康保険協会和歌山支部評議会を開催し、評議員9名中7名の評議員が出席。評議会の概要は下記のとおりです。

<議題>

1. 令和6年度保険料率について
2. 令和6年度支部事業計画・予算案について
3. 第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）

議題1. 令和6年度保険料率について

事務局より資料に沿って説明。

令和6年度の都道府県単位保険料率の変更にかかる支部長意見（案）について、特段の指摘事項なし

主な意見・質問

【学識経験者 A】

・今後も10%維持することについては、現状からするとやむを得ないが、本来は単年度収支で考えるべきであり、納得している訳ではない。

【学識経験者 B】

・支部間で料率に大きな差があることについて、個人的には社会保険の趣旨からすると全支部統一の料率とした方が良いと考える。

【被保険者代表 A】

・インセンティブ制度について、上昇幅や上昇率の評価を大きくすると、順位が年ごとに乱高下するのではないかと、そうすると継続してインセンティブが受けられるとは限らず、制度として問題である。

【事業主代表 A】

保険料率別の支部数が示されているが、都道府県名の公表はできないのか。他支部の料率比較に

より意見を出せると思うのだが。

インセンティブを受けることができる支部が、成績の上位25支部から上位15支部に変更となっているが、今後の和歌山支部ではインセンティブを受けることができる見通しがあるのか。

<事務局回答>

今現在、各支部で支部評議会が行われており、審議段階にある保険料率について、お示しすることができないこととなっている。

インセンティブについては、昨年制度の見直しが行われた。その中で、実施率より伸び率に重点が置かれた事が大きい要因である。今回と反対に、和歌山支部の上げ幅が大きくなることにより、順位が上位になる可能性はあるため、インセンティブを受けることは可能である。

【事業主代表 B】

・10%を超える状況となる前に、準備金を取り崩すべきである。また、常々申し上げているが政府に国庫補助を上限の20%とするよう強く働きかけるべきである。

【被保険者代表 A】

・10%維持を積極的に受け入れている訳ではない。保険料率を下げるためにインセンティブ制度をどのように機能させるのか、また赤字構造をどのように解消するのかを示す必要がある。

【被保険者代表 B】

・平均保険料率に基づく都道府県単位保険料率の決定はやむを得ないが、黒字を見込んでいるのに支部の保険料率が上がることは納得できない。

議題2. 令和6年度支部事業計画・予算案について

事務局より資料に沿って説明。

令和6年度支部事業計画・予算案は満場一致で承認。

主な意見・質問

【学識経験者 A】

バイオシミラーのパイロット事業とはどのようなものですか。

<事務局回答>

バイオシミラーとは、簡単に言えばジェネリック医薬品のバイオ版のようなものです。ジェネリック医薬品と比べ価格が非常に高価なため、高額療養費の受給などで受診者本人へのメリットが見込めないため、令和6年度のパイロット事業として医療機関へのアプローチによる医療費適正化を行い、その結果により全国展開を考えているものであります。

【被保険者代表 A】

マイナンバーカードの利用促進により限度額適用認定証が減少するとの話で、加入者の利便性が向上することは非常に良いことだと思っている。今回、能登半島で震災が起こっている。和歌山でもいつ震災が起こっても不思議ではないので、震災時の医療機関への受診に関し対策等あれば教えてほしい。

<事務局回答>

震災時の対応としては、保険証がなくても医療機関を受診できる等の配慮がされる。

また、薬の処方情報等が確認できるなど、災害時においてもマイナンバーカード活用のメリットがある。

議題3. 第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）

事務局より資料に沿って説明。

第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）は満場一致で承認。

<特記事項>

- ・ 次回は令和6年3月に開催予定であることを報告。